

## (財)日本ユニセフ協会佐賀県支部通信 第14号 2007年9月

事務所：〒840-0054 佐賀市水ヶ江4丁目2-2 TEL/FAX 0952-28-2077

e-mail [unicef-saga@ams.odn.ne.jp](mailto:unicef-saga@ams.odn.ne.jp)

URL <http://www2.odn.jp/unicef-saga/>

\$\$\$ 支部通信はホームページでもご覧いただけます

# 皆さまのご支援のおかげで歴史的成果！

5歳未満の子どもの死亡数 年間1000万人の大台を割り込む

ユニセフ本部発表 【2007年9月13日 ニューヨーク発】

ユニセフ（国連児童基金）は13日、5歳未満の子どもの年間死亡数を含め、世界の子どもたちの生死を左右する状況が着実に改善されていることを裏付ける最新の数値を発表。世界の5歳未満の子どもの死亡数は年間970万人と、はじめて1000万人の大台を割りました（1990年時点では約1300万人と推定されていました）。

「私たちは歴史的な瞬間を迎えました。子どもたちの命が、かつてないほどに守られているのです。私たちは、こうした着実な成果を基に、さらに多くの子どもたちの命を守り育てていくために、ミレニアム開発目標に掲げた約束を果たすための努力を続けなければなりません。」 ユニセフ事務局長アン・ベネマンは、こうコメントしています。

国際社会は、ミレニアム開発目標を通じて、1990年から2015年までの間に5歳未満の子どもの死亡率を3分の2にすることを約束しました。この約束が実行されれば、2015年までに更に年間540万人の幼い命が守られます。

しかしながら、私たちにはこの成果に満足している余裕はありません。「970万もの幼い命が毎年失われているという現実、到底受け入れられるものではありません。こうした命のほとんどが、予防可能な病気によって失われているのです。そして、今回明らかになった『成果』が示すように、その予防のための有効な手段は、既に私たちの手中にあるのです。こうした子どもたちの命は、コミュニティに根ざした草の根の総合的な保健サービスがもっと普及すれば、そしていざという時に専門の病院などに搬送できるシステムが整っていれば、失われることのない命なのですから」（ベネマン事務局長）。

現在失われている970万の命。南アジアが310万人、サハラ以南のアフリカが480万人を占めています。また、開発途上国の中でも、農村地域や貧困家庭での死亡率が高くなっています。

現在、最も深刻な状況にあるのが西部・中部アフリカ諸国。また、南部アフリカ諸国でも、状況は一旦向上しましたが、HIV/エイズ感染の拡大によって、その進展は阻まれています。【資料提供：(財)日本ユニセフ協会】

皆様方のご支援が着実に子どもたちの命を守っています。この世に生を受けた子どもたちが笑顔で5歳の誕生日を迎えられるように、これからも皆様方の力強いご支援ご協力をよろしくお願いします。

# 世界の子どもたちは、今



©UNICEF Jordan/2007/Al-Moughrabi

ヨルダン政府はイラク難民の子どもたちをヨルダンの学校に受け入れはじめた。

## ＜ヨルダン＞

～再び学校に通いはじめたイラク難民の子どもたち～

【2007年9月10日 ヨルダン・アンマン発】



- ・面積  
8.9万平方キロメートル  
(日本の約4分の1)
  - ・人口  
535万人(2005年)
  - ・首都  
アンマン (Amman)
- 以上、外務省HPより

イラク人のイクザズさん一家は、紛争が続く母国を逃れ、2004年から隣国のヨルダンで暮らしています。イクザズさん一家の生活は、近所に住むウム・ジュムアさんの善意に支えられています。ウムさんの助けがなければ、食べものも、着るものも、住む場所さえなかったかも知れません。

「働くことはできません。働いてしまったら、強制送還されてしまいます。」父親のアルマシュ・イクザズさんは話します。「だから、子どもたちの学用品を買うお金もありませんでした。(今回)子どもたちがまた学校に通えるようになって、とても幸運でした。」

ヨルダン人以外の子どもたちが学校に通うには、一人70ドルの入学金が必要です。また、教科書をそろえるのに、さらに15ドルが必要です。ウム・ジュムアさんは、イクザズさんの子どもたちに、教科書を買ってくれました。大家のウム・ジュムアさんは、イクザズさん一家のために、家族や親戚からお金を集めてくれたのです。それでも、イクザズさんの子どもたち全員に買い与えることはできません。

学校までは、歩いて45分。子どもたちは、毎日、早朝家を出なければいけません。「もうすぐ、ひどい雨が降り始め、骨まで冷たくなってしまおうような寒い冬がやってきます。そんな中、子どもたちは歩いて学校へ行かなければいけないんです」。ウム・ジュムアさんは不安そうに話してくれました。

こうした状況を考慮し、ヨルダン政府は、イラク難民の子どもたちのヨルダンの学校への入学を認めました。ヨルダンでは、約75万人のイラク人が避難生活をおくっています。昨年、2万人ほどの子どもたちが、ヨルダンの学校に通いはじめました。

ユニセフは、他の人道支援機関と協力し、こうしたヨルダン政府の取り組みを応援しています。今年は、新たに5万人のイラクの子どもたちを学校に通わせることを目標にしています。ユニセフは、教育省と協力して、教科書を提供。学費を払う余裕のない人々には、そうした支援も実施する予定です。



© UNICEF Iraq/2007

一方、ヨルダンの小学校の教室は既に子どもたちで溢れかえり、イラク人の子どもたちを迎え入れる余裕がありません。ユニセフは、教育省に対し、2部制の導入と校舎用の建物の貸入を促すために必要な技術的な支援も実施しています。

また、教員には、イラクの子どもたちに「こころのケア」を提供するための訓練も実施しています。

イクハラスさん（13歳）は、イラクからヨルダンへ避難してきた後、何年も学校に通うことができませんでした。

「学校へ行くことができるととても嬉しい」。彼女は話します。「でも、全部の教科書を買うことができないから、他の生徒の前に行くのが恥ずかしいわ…」。イクハラスさんたちは、今はただ、一日でも早くこの苦境から抜け出せる日が来るのを忍耐強く待っています。 【資料提供：(財)日本ユニセフ協会】

### ユニセフ、イラクでコレラ流行の防止を支援

推定で2,000人が発症、さらに流行が広がるおそれ

【2007年8月29日 アンマン/エルビル発】

ユニセフは、イラク北部のスレイマニアとキルクークで発生したコレラの犠牲者を助けるため、緊急の支援を実施した。地元当局の報告では、今回2,000人以上が発症し、5人が死亡、さらにこの2日間だけで約500人が重い下痢症状のために入院したとのこと。47件は真性コレラと確認されたが、この数は今後増えるの見込まれている。コレラ発生でおとなたちも大きな影響を受けているが、子どもたちはきわめて危険な状況に置かれている。

犠牲者の多くを治療しているスレイマニアとキルクークの病院を支援するため、ユニセフは4,000人分のカニューレ（挿管）と注射針、15,000袋の経口補水塩（ORS）を支給した。ORSは重症の下痢が引き起こす脱水症状での死亡を防ぐために不可欠である。さらに今日、安全な飲料水キット4,000個がスレイマニア地域の家庭に配られたが、この地域では、多くの国内避難民が危険な状態にある。

ユニセフのチームは、罹患者を発見したり、人々が汚染された水を利用して病気が流行するのを防ぐため、総合的なモニタリングや地域社会の意識向上プログラムを実施している保健関係者や他の機関に対して支援を行っている。また、ユニセフは、保健関係者に対して、重症の下痢への対処・治療方法に関する追加訓練を行い、病気の抑制に努めるほか、地元当局や世界保健機関（WHO）と緊密な連携を取り、対応策を調整している。

今回の病気の発生は水質と下水処理に深刻な問題があることが主な要因であると言われているが、スレイマニアでは、十分な水の供給を受けているのは人口のわずか30%に過ぎず、主な市街地やその近郊も、水道水は日に2時間しか使えないのが普通である。スレイマニアにおける7月以降の水質報告によると、市内の水のわずか50%しか塩素処理されておらず、また、多くの人々が戸外に浅い井戸を掘る事態になっている。

コレラが流行すれば、いっそうの支援が緊急に必要となるだろう。それには、脱水症状を防ぐために亜鉛を添加したORSや浄水タブレットをさらに多く配布すること、短期的な水の輸送、衛生習慣の向上を推進するキャンペーンの実施などが含まれる。さらに、ユニセフは、影響を受けている地域の世帯に対し、子どもたちが未処理下水に近づかないように注意すること、常に石鹸で手を洗うこと、浄水した水や煮沸した水だけを飲用とすることなどを呼びかけている。 【資料提供：(財)日本ユニセフ協会】

ボランティア 田中凌慧さん（佐賀西高校 1年）

私が日本ユニセフ協会佐賀県支部と関わるきっかけとなったのは、昨年成瀬中で行ったチャリティーバザーです。ユニセフの活動をアピールするとともに、集まったお金を募金させていただき、貴重な経験となりました。

また、今回はユニセフの集いにも参加させていただくことができました。集いには、実際に現地での活動をされた方もおられ、話を聞く事ができ大変勉強になりました。世界の子どもたちが十分な環境で生活する日がまだまだ遠い事を改めて感じた反面、私たちにできる事がたくさんあることも知りました。

今後もこうした活動に関わっていけたらうれしいです。そして、もっともっと多くの人に参加して、世界が変わっていけばいいなあと思います。



## かつどう ほうこく

- ◎ 6月24日（日） 第6回親子交流会 in プラザ i スクエアビルにて（佐賀市 JR 佐賀駅南口）  
あした天気にな～れ！ ～つながる手と手 つながる想い つながる未来～  
ユニセフのテーマ： 手をつなごう 小さないのちのために



梅雨空にもかかわらず1200人を越える親子連れがプラザを訪れて、色々な催しを楽しみました。ユニセフのブースでは、すごろく遊び・パネルの展示・ミニカーバザーなどをしました。赤ちゃんから高校生まで多くの人に参加し、ユニセフの活動について遊びながら学びました。

- ◎ 6月28日（木） 募金贈呈式 事務所にて  
佐賀郡東与賀町立東与賀中学校では全校でユニセフ募金に取り組みました。各クラスの奉仕部のみなさん

が中心となって活動をした結果 4,778 円の募金が集まり、3 年の生徒会奉仕部代表と担当の先生が事務所までお届けくださいました。

◎ 6月29日（金） 募金贈呈式 事務所にて



立正佼成会唐津教会では5月20日に『第38回青年の日』・第13回チャリティーフェスティバルを虹の松原広場（唐津市）において開催されました。多くの皆様から寄せられた浄財のうち5万円を、ユニセフのアジア4カ国（フィリピン・カンボジア・東ティモール・ネパール）における初等教育支援にと、ご寄付いただきました。

◎ 8月2日（木） 「ピースアクション2007 ～平和のつどい～」会場にてパネル展&グッズ頒布  
(佐賀市アバンセ)



「ピースアクション」は50年近く続けられてきた生協の平和活動です。佐賀県でも佐賀県生協連に加盟する7つの生協が協力して、「平和とよりよき生活のために」をスローガンに、毎年親子で取り組める平和活動が展開されています。会場には約230名の方が集まり平和な世界を願われました。ホワイエでは、ユニセフのパネル展・グッズ頒布・ミニバザーをしました。

◎ 8月8日（水）「2007 ピースアクション in ナガサキ」会場にてパネル展&グッズ頒布&交流会  
(長崎市民会館展示ホール)



「We Love Peace！ みんなのひろば」において、パネル展・グッズの頒布・ユニセフすごろく・絵本のお話会を行いました。佐賀県支部からの参加は今年が初めてでしたが、長崎の学生ボランティアさんの大活躍もあって、ちびっ子

たちは「ユニセフすごろく」や「絵本のお話会」に大喜びでした。

◎ 8月27日（月） 成穎中学校3年生 総合学習で事務所訪問

4人の生徒さん達が総合学習でユニセフについて調べ、学習の成果を10月に発表されます。殺虫処理をした蚊帳、水がめの実物、地雷のレプリカに触れ、経口補水塩、ビタミンAが自分達にも手の届く金額で手に入ることを知りました。



◎ 7月22日（日）**第4回ユニセフのつどい** '07夏 ～若い力が未来

後援：佐賀県教育委員会 佐賀市教育委員会 NPO法人佐賀大学スーパーネット



司会：池田さん、光岡さん

2007年の夏、佐賀は若者の大活躍で大いに沸きました。佐賀北高校の甲子園優勝は全国の人々に爽やかな感動を与え、佐賀県内各地では全国の高校生が総体で汗を流し、そして佐賀県支部のユニセフのつどいでは、若者たちの力強い熱い思いを出し合っていました。中学生によるフレッシュな司会で、「つどい」は和やかななかにも充実した内容のものになりました。

### I. アイスブレイキング「ユニセフ・ビンゴ」



「ユニセフ・ビンゴ」を通して、ユニセフの歴史や活動について触れていただきました。

### II. 現地視察報告会：「伝えたい！見たこと・聞いたこと・感じたこと」

(1) 「ジャワ島地震から1年～みんなが笑顔でいるために～」 山口春香さん（武雄高校1年）

＊ 山口さんは中学3年の夏休みに、「NPO法人国境なき子どもたち」主催の、「2006年夏休み友情のレポーター」として、ジャワ島中部地震の被災地取材。自作のビデオ「地球がまあるい理由」をつかひながら、ジャワ島地震被災地の同年代の子どもたちの様子を伝えていただきました。

(2) 「私がニジェルで出会った子どもたち」 本司貫さん（佐賀大学経済学部3年）

＊ 本司さんは、大学1年の春休みに、「あしなが育英会」が2000年から毎年行っている「日本と世界の遺児の心の癒しつどい交流会」に、ニジェルの遺児たちを招くための事前調査隊としてニジェルを訪問。平均寿命41歳のニジェルで様々な困難な状況下でもキラキラ輝く瞳で元気に生きる遺児たちの様子を伝えていただきました。

### III. パネルディスカッション「地球市民として明日を拓く」



コーディネーター 大草秀幸さん（アバンセ館長）  
 パネリスト 田中凌慧さん（佐賀西高校1年生）  
 山口春香さん（武雄高校1年生）  
 本司 貫さん（佐賀大学3年生）  
 牛島裕子さん（看護師）  
 富安慶子さん（公務員）



田中さん

ボランティアは楽しい！昨年学校でチャリティーバザーを企画実行した。バザーは身近なところから始められ、いろんな人と知り合うことができて人の輪の広がりを実感した。達成感も味わうことができた。身近な小さなことから始められることがいっぱいある。



山口さん

被災地の子どものキラキラ輝く目に、子どもたちの「感動する心」を感じた。今私にできることは、世界のことを知ること、そしてそれを忘れないで考え思い続けること。幸い私は勉強できる環境にあるので、今はしっかり勉強をして自分に力をつけたい。



本司さん

とかく「途上国」というと悪い面が大きく取り上げられるが、良い面もたくさんあるということを伝えたい。フェアトレードの製品を買うなどの身近に協力できることはある。現地の人にとって一番重要なことは、自分たちの力で村づくりや国づくりをしていくこと。「自分たちの力で頑張ろう」としている気持ちをお手伝いできるような仕事をしたい。現地の人にとって一番重要なことは、自分たちの力で村づくりや国づくりをしていくこと。「自分たちの力で頑張ろう」としている気持ちをお手伝いできるような仕事をしたい。



牛島さん

子どもの頃 **TV** で心や体に傷を負いながらも懸命に生きている子どもたちの姿を見て看護師になりたいと思った。この目で現地を見、世界中の子どもたちが笑顔で駆けまわり夢を持つことができる、そんなあたり前のことができるように、看護師として医療の技術をもっと身に付けたい。



富安さん

**TV** で世界の惨状を見ながら「なぜこんなことが起きるのだろう」と子どもの頃から思い、大学では国際政治や民族紛争について勉強した。平和構築のためには「人としての思いやり」が大切だと感じている。  
「ある出来事」を一つの視点からみただけで「知った」ことにはならない。なるべくいろんな角度から物事をみていくようにし、身近な小さなことから少しずつやっていくと、いい方向に動くと思っていて頑張っていきたい。



コーディネーター 大草さん

若い5人の皆さんのそれぞれ違った立場からのお考えを聞かせていただきました。みなさん、しっかりしていますね！  
自分の足元をしっかりと踏みしめ、これからは見据えている！

### 参加者の感想から

- ★ 若い人たちの、自分をしっかり見据えながら広い視野で世界の貧困や災害下にある弱い立場の人たちに目を向け考え、ヒトゴトではなくジブンゴトとして捉えられていることに心を動かされました。若者に学ばなければと思いました。
- ★ 中学生が立派に司会をされたことはとてもよかった。中学生の司会を見て、いろんな世代にユニセフの活動が広まっているということを感じることができた。
- ★ 佐賀にもこのような若い方がいらっしゃるのを頼もしく思いました。
- ★ 今日の集い、参加させていただきありがとうございました。世界の不条理と向き合って、なんとかしたいと思う純粋な気持ちを持った若い人たちに会い、頼もしさを感じつつ、自分の活動の原点・・・学生時代のユニセフクラブなどでの活動・・・も思い出させてくれました。サークルでは「知って、伝えて、行動する」ことがモットーでしたが、今日の皆さんの活動の様子はまさに同じでした。  
大人になる前、立場が決まってしまう前、ある意味「フリー」な時に、いろんなところへ行き、いろんなことを直に体験し、感じ、考え、悩み、なおかつ、自分の中だけにとどめずに、どんどん外に働きかけ『続けて』ってほしいなと思いました。遠くの世界に想像力を働かせながら、身近なところから変革と創造に向けて、ともに歩いていきましょう。
- ★ しっかりとした若者の意見を聞くことができて大変よかった。このような若者が佐賀に生まれ育っていることにもっとライトを当てたい。「この頃の若い者は・・・」と言う言葉は苦言を呈するときに使うが、「この頃の若い者はすごい！しっかりしている！」と言いたい。ぜひ、それぞれの夢の実現に向けて頑張っていて欲しい。

◎ 9月2日（日）～9月12日（水）

佐賀市立図書館 2階ロビーギャラリー

ユニセフ写真展「子どもとエイズ」世界キャンペーン

～アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使のレソト視察記録～



### 来場者の声

- ★ レソトという国を初めて知った。レソトでは国民の4人に1人がHIV/エイズにかかっているということを知り、驚いた。エイズは「大人のこと」と思っていたが、そうではなくて「子どもたちにとっても大きな問題になっている」ということが分かった。写真を見てよかった。
- ★ レソトという小さな国がアフリカにあるということを知り、驚いた。その国の人々の平均寿命が35歳ということを知り、驚いた。90年代初めの頃の平均寿命は60歳だったということを知り、それが今はエイズのために35歳ということはレソトには社会の基盤を支える働く人々がどんどん少なくなっていくということを知り、このまま放っておけばレソトはエイズのために国が滅びるのではないかと考えた。日本にいる私たちは「対岸の火事」として見ていてよいのだろうか？
- ★ 小学生の娘と来ました。ガリガリに細った子どもの写真など世界の貧しさを目のあたりにして…言葉につまります。娘（小6）の「エイズって？」という言葉に、もっと家で話してあげなくてはと思った。



- ★ 「100人村」のテレビを見たり今日の写真を見たりしてかわいそうと涙が出そうになるけど、でも、自分はどうしたらよいか分からなかった。今日、係りの人の話を聞いて自分でも何かできそうな事がありそうで、ぜひ何かしたい！早速友だちを誘ってボランティアに参加したい。
- ← (…ということで、早速、ユニセフのボランティア講座参加を申し込んだ専門学校の学生さんたち)

### ボランティアさんの声

- ★ 今日はユニセフと世界で苦しんでいる子ども達のことについて勉強できました。今回のボランティア活動で、こうやって、ただ何かをすることで、他の人達にも、世界で苦しんでいる子ども達のことを紹介できるということを学びました。写真を見た人達にレソトの子ども達のことについて、考えてもらうきっかけを作れたのがとても嬉しいです。私自身も、今回のボランティア活動を通して、もっと、手伝えたいという気持ちがすごく大きくなりました。これからは、もっとボランティア活動をして、少しでも世界で苦しんでいる子どもたちの助けになりたいです。(高校生)
- ★ 写真には、とても強い力があります。子どもたちとアグネスさんの会話が聞こえるようで、笑い声や悲しみ、苦しさを想像しました。写真展を通して、たくさんの人にこの気持ちを、この現状を感じて欲しいです。(高校生)

### 〔お詫び〕

- \* 写真展は10月中旬に開催の予定でしたが、会場の都合により急遽1ヵ月半の繰上げ開催となりました。会員の皆さまには事前のご案内をする時間もなく、事後のご報告になってしまったこととお詫び申し上げます。

## ご支援・ご協力ありがとうございました

東与賀中学校様 国際ソロプチミスト佐賀西部様 立正佼成会唐津教会青年部様 ローソン佐大前店様  
いっせい麺処様 ようどう館佐賀校様 ようどう館大和校様  
木室小学校様 三又中学校様 大川東中学校様 道海島小学校様 ワークステーションSAGA様  
佐賀リハビリテーション病院様 本庄公民館様 雇用能力開発機構佐賀センター様 佐賀県国際交流協会様  
佐賀県県土づくり本部農地整備課様 大塚製薬株式会社佐賀工場様 日新公民館様 武井電機工業様  
うめづ歯科様 勤労者トラベルセンター様 佐賀市役所国保2係様 中央クリニック様  
イ・ニーズ様 九電工労組佐賀支部様 コープさが南店様 さが市民活動プラザ様 佐賀市役所庶務係様  
佐賀玉屋デパート総務課様 (2007年6月21日～9月15日)

- \* 様々な形でのご支援ご協力を感謝申し上げます。個人のみなさまからもたくさんのご支援を頂いていますが、平成17年4月1日からの「個人情報の保護に関する法律」施行に伴い、個人の方のお名前の掲載は控えさせていただきます。



# ユニセフ・カード&ギフト 秋冬コレクション2007

## ユニセフ・カードとギフトとは…

ユニセフ・カードには、お祝いの言葉や季節のご挨拶などのメッセージを伝えるグリーティング・カードやハガキがあり、世界中で愛用されています。ユニセフ・カードやギフト製品は、世界各国の芸術家・所蔵家・芸術関係者の方々より作品複製許可をいただいて制作しています。



©(財)日本ユニセフ協会

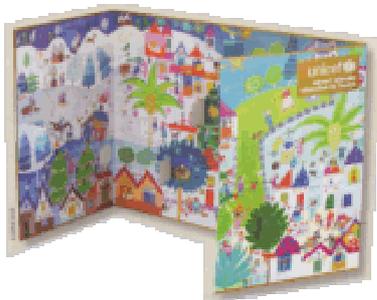
ユニセフのグリーティング・カードは可能な限り再生紙を使用しています。封筒は基本的に古紙配合率50%の再生紙、ハガキはすべて古紙配合率40~100%の再生紙または非木材紙が使われています。

ユニセフ・カードとギフトは定価の約50%がユニセフの現地活動資金として、予防接種乳・幼児総合ケア・女子教育の推進・子どもの保護・HIV/エイズの予防や知識の普及などに役立てられます。

ユニセフの願いがぎっしり詰まったカードとギフトをどうぞご利用ください !!

カタログご希望の方は下記までご連絡ください

TEL/FAX 0952-28-2077 e-mail [unicef-saga@ams.odn.ne.jp](mailto:unicef-saga@ams.odn.ne.jp)



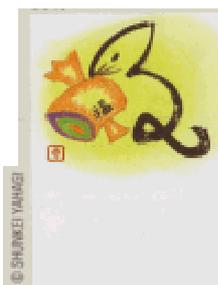
アドヴェント・カレンダー ¥1000  
ソフィー・ファテュ (フランス)  
12月になったら24の小窓をひとつ  
ひとつ開けてカウントダウン!



2008年 月めくりウォール・カレンダー ¥1300  
EU製  
世界の子どもの絵12枚を集めたカレンダー。  
日付欄には日本の祝日が日本語で盛り込まれています。



クリスマスカード



年賀状 ¥500 (10枚)

# 日本ユニセフ協会会員募集



©UNICEF

日本ユニセフ協会佐賀県支部では会員を募集しています。(県外の方もOKです) 会員として、世界の子どもたちのために、応援していただきませんか？

## Q. 会員ってなあに？

A. 世界の子どもたちを支援する日本ユニセフ協会を、会費によってご支援いただく方法です。会員登録をしていただき、ユニセフの機関紙やさまざまなユニセフの資料を通じて、世界の子どもたちのおかれている状況について理解を深めていただくことができます。また、佐賀県支部の活動情報を入手し、会員としてさまざまなイベントにご参加いただけます。

## Q. 会費の種類は？

A. 3種類あります。

- ① 一般会員…個人ならどなたでも入会できます。年会費は5,000円です。
- ② 学生会員…18歳以上の学生の方が対象です。年会費は2,000円です。  
\*18歳未満の方は「ユニセフ子どもネット」にご参加ください。
- ③ 団体会員…団体、法人、企業などが対象です。年会費は100,000円です。

## Q. 会員の期間は？

A. ①の一般会員と②の学生会員は、入会月から1年間です。  
③の団体会員は、毎年4月から翌年3月までの1年間です。

## Q. 問合せ先は？

A. お問合せは下記事務所までお願いします。



(財)日本ユニセフ協会佐賀県支部 (佐賀市水ヶ江4-2-2)  
電話&ファックス 0952-28-2077  
(お電話の方は、月・火・木の10時から15時までの間をお願いします)  
e-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp

## これからの予定



- 10月14日(日) ユニセフ・ボランティア講座① (佐賀市アバンセ)
- 10月27日(土)～28日(日) アバンセフェスタ (佐賀市アバンセ)
- 11月3日(土) 小城ふるさと祭り
- 11月11日(日) イオン・イエローレシートキャンペーン (佐賀市ジャスコ佐賀大和店)  
かたりべの里本庄まつり (佐賀市本庄小学校)
- 11月18日(日) ユニセフ・ボランティア講座② (佐賀市アバンセ)
- 12月2日(日) さが国際交流・協カフェスタ 2007 (アバンセ)  
ユニセフ・ボランティア講座③
- 12月12日(水) ユニセフ出前授業 (小城市立三日月小学校)
- 12月16日(日) ユニセフ ハンド・イン・ハンド  
ユニセフ・ボランティア講座④

☆ ユニセフ・ボランティア講座の詳細については、同封のチラシをごらんください。

## 事務所ご案内

日本ユニセフ協会佐賀県支部は、佐賀市水ヶ江4丁目2-2、龍谷高校の東です。ユニセフの活動を知っていただく色々な資料があります。どうぞおいでください。

